

力作が揃った作品の数々

「第1回『私とみんてつ』小学生新聞コンクール」受賞作品の表彰式は、1月12日（土）、東京會館 東商スカイルームにおいて開催された。

日本民営鉄道協会が主催したこのコンクールは、新聞づくりを通じて子どもたちに鉄道や民鉄に対する関心と理解を深めてもらうことを目的に、全国小学校社会科研究協議会の後援を得て、平成19年7月1日から9月末日まで実施したもの。小学生3～6年生を対象に、民鉄を利用して思ったこと、知っていることを自由にまとめ、B4サイズの「新聞」をつくってもらった。今年度のテーマとして「鉄道におけるマナー」について盛り込むことが条件だ。このコンクールの実施に伴い、日本民営鉄道協会ではホームページに子ども向けサイト『みんてつキッズ』を開設し、サイト内に新聞づくりを活用できる鉄道に関する情報を集めたパンフレット『鉄道しり隊！しらべ隊！』を用意するなど、バックアップ体制を整えていた。

第1回目の今回集まった応募作品は、全国254校から995作品（1236人）。綿密な下調べや取材、文章、レイアウト、イラストや写真——中身の濃い記事内容と、読みやすさ見



全員で記念撮影

「私とみんてつ」 小学生新聞コンクール 表彰式を開催

第1回

全国約1000点の応募作品の中から、
個人賞13作品・学校賞5校を表彰。

全国の子どもたちに鉄道をもっとよく知り、鉄道をもっと好きになってもらいたい——そんな願いから企画された「私とみんてつ」小学生新聞コンクール。その記念すべき第1回の表彰式が行われた。また、最優秀作品1点はポスター化され、協会加盟72社の駅に掲出されている。



主催者挨拶をする佐藤茂雄会長

しい」と、子どもたちの努力と作品の出来栄を称賛。緊張した面持ちで着席していた子どもたちの間にも晴れやかな笑みが広がった。

また、全国小学校社会科研究協議会の豆田啓二会長からは「どの作品も中身の濃い、工夫ある構成の作品ばかり。このコンクールで受賞された皆さん一人ひとりがそれぞれの地域に根ざした鉄道や民鉄の働きや役割に一層の関心を持ち、自らも地域社会の一員として、地域の生活や発展に力を発揮されることを期待したい」と、お祝いの言葉が寄せられた。

7作品・佳作26作品、ならびに学校賞の最優秀学校賞1校・優秀学校賞2校・審査員特別賞2校。表彰式は、佳作受賞者を除く受賞者13名、受賞校5校を招いて開催された。

表彰式では、主催者挨拶に立った日本民営鉄道協会 佐藤茂雄会長（京阪電気鉄道株式会社代表取締役CEO）が「第1回目のコンクールだが非常に多くの作品が寄せられ、なおかつ力作揃いで受賞作を選ぶのが大変だった。その中から選ばれたのだから、たいへん優秀な素晴らしい作品。次回もぜひ参加してほしい」と、子どもたちの努力と作品の出来栄を称賛。緊張した面持ちで着席していた子どもたちの間にも晴れやかな笑みが広がった。

最優秀作品はポスターに

その後、会場を移して、懇親会となった。

最優秀作品賞・優秀作品賞・審査員特別賞を受賞した13作品については

道協会 佐藤茂雄会長（京阪電気鉄道株式会社代表取締役CEO）が「第1回目のコンクールだが非常に多くの作品が寄せられ、なおかつ力作揃いで受賞作を選ぶのが大変だった。その中から選ばれたのだから、たいへん優秀な素晴らしい作品。次回もぜひ参加してほしい」と、子どもたちの努力と作品の出来栄を称賛。緊張した面持ちで着席していた子どもたちの間にも晴れやかな笑みが広がった。

品が寄せられ、なおかつ力作揃いで受賞作を選ぶのが大変だった。その中から選ばれたのだから、たいへん優秀な素晴らしい作品。次回もぜひ参加してほしい」と、子どもたちの努力と作品の出来栄を称賛。緊張した面持ちで着席していた子どもたちの間にも晴れやかな笑みが広がった。

次回もぜひ参加してほしい」と、子どもたちの努力と作品の出来栄を称賛。緊張した面持ちで着席していた子どもたちの間にも晴れやかな笑みが広がった。

「第2回『私とみんてつ』小学生新聞コンクール」は、今年も7月から実施する予定だ。



受賞者を代表して感想をのべる黒沢優子さん



表彰式風景

受賞作品は、個人賞の最優秀作品賞1作品・優秀作品賞5作品・審査員特別賞

やすさを考えた工夫が光る力作が揃った。この中から、日本民営鉄道協会加盟各社ならびに全国小学校社会科研究協議会の審査委員立ち会いによる厳正な審査を経て、受賞作品が選ばれた。

INTERVIEW



最優秀作品賞

日本民営鉄道協会 会長賞

『コアラ新聞』

国府台女子学院小学部 黒沢優子



私は佐倉市にあるユーカリが丘線と京成電鉄を利用して通学しています。ユーカリが丘線は「コアラ号」の愛称があり、新聞のタイトルは毎日乗っている「コアラ号」からつけました。

新聞には、私が電車に乗っていて具合が悪くなったとき、知らない方からとても親切にいただいたことや車内で気になるマナー、楽しかった鎌倉への日帰り旅行などを書いてみました。記事を短くまとめたり、自分の思ったことをうまく表現するのは難しかったけれど、新聞づくりは楽しかったです。学校で先生から入賞のお話を聞いたときは、飛び上がるほどうれしく、最初は信じられませんでした。第1回という記念のコンクールで大きな賞をいただいたことを励みに、またいろいろなことに挑戦していきたいと思っています。



優秀作品賞

全国小学校社会科研究協議会 会長賞
『みんなてつ』

白井市立清水口小学校 熊澤良太

お父さんが駅でコンクールのポスターを見て、夏休みの自由研究でやってみたらとすすめてくれました。もともと電車が好きだったので、うまく書くことができたと思います。駅の人にインタビューしたりするのが大変だったけれど、すごく親切に教えてくれた。学校の先生にもうまいねってほめられたし、がんばってよかったと思っています。

全国小学校社会科研究協議会 会長賞
『民鉄HOTニュース』

名古屋市立小幡小学校 長村晃一

小さいころから電車が大好きです。もともと新聞づくりは得意だったし、電車は得意中の得意だから、すぐ応募しようって決めました。トップの記事は、名鉄の瀬戸線の紹介にして、車両のイラストも描いてつけました。社説には、地球環境の保護ということから車ではなく電車の利用を呼びかけました。受賞はとてうれしかったです。でも、僕よりお母さんの方が喜んでいました。

日本民営鉄道協会 広報委員長賞

『赤い花新聞』

みんなにやさしい三岐線』

暁学園暁小学校 伊藤奈美

三岐線の駅に貼ってあったポスターを見て、やってみようと思いました。きれいで読みやすい新聞にしたかったので、タイトルや電車の絵を切り絵にしたり、写真を使うなど工夫しました。目がわるい人でも見やすいように、字も少し大きくしてみました。読みやすい字を書くのがちょっと大変だったけど、面白かった。賞をもらって、とってもうれしかったです。

日本民営鉄道協会 広報委員長賞

『みんなてつくんが紹介するみんなてつ新聞』

池田市立池田小学校 濱屋江里

阪急電車にあった広告を見て、出してみたいと思って夏休み中に仕上げました。構成内容を考えて調べものをしたり、マナーについてはクラスのお友だちやいろんな人にインタビューして記事をまとめました。絵を描くことと字を書くことが好きなので、新聞づくりは大好きです。家族にはきれいなよい作品ができたねってほめられました。受賞は思ってもみないことだったのでとてもうれしかったです。